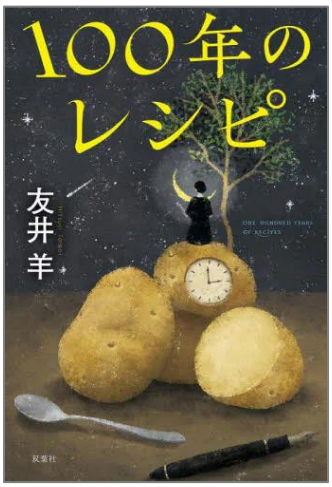
職員オススメ本　２月

「仕事のためには生きてない」
安藤 祐介／著　ＫＡＤＯＫＡＷＡ

創業百年の老舗食品メーカー、「ミカゲ食品」に勤める三十五歳の多治見勇吉。勇吉は趣味のバンド活動を最優先に考えており、出世などに興味はなかった。転職も考えていたある日、ミカゲ食品のレトルトカレーへの異物混入が発覚する。謝罪会見を済ませた直後、社長が「“スマイルコンプライアンス”精神で、信頼回復に努めてまいります」と発言し、世間から不謹慎だと大バッシングを受ける。会社が対応に追われる中、本部長に呼び出された勇吉は、新設部署の「スマイルコンプライアンス準備室」に異動となり…。

「青春をクビになって」　額賀　澪／著　文藝春秋

瀬川朝彦、３５歳、無給のポスドク。正式名称はポストドクター。日本語にすれば博士研究員。学生時代に魅了された古事記の研究をしている。かつては国文学の名高い私立大学に研究員として二年ほど研究したが、契約が切れてからは都内の大学を渡り歩いて非常勤講師をしているのだが、今しがた、「来年度の契約更新はしない」と通達される。朝彦は、講師の口がないか相談しに母校を訪れると、そこにゼミ時代の先輩ポスドク、小柳が研究室に住み着いていた。そんな折、小柳が大学の貴重な史料を持ったまま行方不明になったと連絡が入る。
研究を愛するポスドク達の苦悩と決断のお仕事小説です。



「１００年のレシピ」　友井　羊／著　双葉社

大学生の磐鹿理央は恋人に作った手料理を失敗しフラれる。彼を諦めきれず藁にも縋る気持ちで大河料理学校へ通い、徐々に料理の楽しさを感じていくと同時に、百歳目前の創業者・大河弘子と祖母が知り合いらしいこともわかり、弘子のことが気になっていく。
ある日、授業の後に立ち寄った図書室で弘子の曾孫・翔吾と偶然知り合う。ひょんなことから弘子と対面を果たすが、『あなたに逢えて、本当に良かった』と言い残してこの世を去った弘子の真意を探るため、翔吾と共に彼女の人生を調べることになる。
人気料理研究家大河弘子が辿った人生と料理のミステリー短編です。